

令和5年度「明日の和歌山市を築くジュニア会議」

質問(日進中学校)		答弁(城東中学校)	
分野	県都として活力にあふれたまち	分野	県都として活力にあふれたまち
	<p>議長のお許しをいただきましたので、ただいまから一般質問をさせていただきます。私たちは、空き家問題についてお聞きしたいと思います。</p> <p>毎日通学路を歩いていると、近所でも空き家になっていく家をよく目にします。家が古く倒れそうになっていたり、台風などで壁がはがれそうになっていたりしている空き家も見ることがあります。</p> <p>和歌山市のホームページを見るとこのように書かれていました。 『地域における人口の減少、高齢単身世帯の増加や既存の住宅・建造物の老朽化に伴い、使用がされていない「空家等」が年々増加し続けています。和歌山市におきましても、平成30年の住宅・土地統計調査による空き家率は19.0%と全国の空き家率13.6%と比べて非常に高い割合となっており、今後も空き家率及び空き家数の増加が懸念されます。』</p> <p>この資料を読んで、私たちの住む和歌山市の空き家率は全国よりも高く、対策の効果が十分に表れていないのではないかと感じました。</p> <p>それでは市長に質問です。 東京都では「空き家情報サイト」を開設し、空き家の適正管理や有効活用などについての情報を発信しているようです。</p> <p>また、岡山県岡山市では空き家バンクへの登録で、空き家と 空き家を利用したい人とのマッチングを支援する取り組みが行われているそうです。</p> <p>この2つの事例を出させてもらったのは、インターネットの画面上だけではなくセミナーやシンポジウムなどを開催し、実際に顔を合わせる機会を設けていることが印象に残ったからです。</p> <p>和歌山市ではこのような取り組みをしていますか？また、今現在行われていないのであれば、このような取り組みを行う予定はありますか？</p> <p>以上で質問を終了させていただきます。</p>		<p>和歌山市立日進中学校の質問について、答弁をさせていただきます。</p> <p>和歌山市には「空家対策課」があり、空き家等の適正管理の促進、利活用の推進及び相談業務などをおこなっています。法令等においても、平成29年3月に「和歌山市空家等対策計画(第1期)」, 令和4年3月に「和歌山市空家等対策計画(第2期)」を策定、令和5年3月に一部改定するなどし、地域や専門家団体と連携しながら空家等対策に取り組んでいます。また、平成30年1月から、各専門家団体と和歌山市は「空家等対策の推進に関する協定」を締結し、連携して空家等の有効活用・適正管理・発生抑制等を推進しています。</p> <p>空き家バンクについては、和歌山市のホームページで、県外から移住を希望される方に空き家情報を紹介する和歌山県の情報サイト「わかやま空き家バンク」への物件登録を随時募集しています。「わかやま空き家バンク」は和歌山県が設置し、管理運営などについては和歌山県住宅供給公社内に設置された和歌山県定住支援住宅管理機構がおこなっています。この他にも、空き家に関する相談窓口として「空き家相談センターわかやま」が開設されています。空き家の適正管理・解体・改修・耐震など建物に関する相談から利活用・税相続などの相談まで、空き家に関するあらゆる相談を一元的に受け付けるワンストップの窓口です。</p> <p>和歌山市としては、適切に管理されていない空家等に対する所有者等への働きかけや不良空家に対する除却補助事業など、多くの空き家の管理不全の是正を図っています。また行政と専門家団体が連携した空き家相談会の開催や啓発用リーフレットを作成するなど積極的な情報発信を行うことで空き家の発生の未然防止に努めるとともに、利用しなくなった市有施設や民間空き家を再度活用し、新たな施設に再生させるなど空家等対策に取り組んでまいりました。</p> <p>しかしながら、既存住宅等の老朽化や少子高齢化の進行により、今後も空き家は増加していくことが予想されます。そのため、引き続き継続的な空家等対策が必要であると考えています。</p> <p>和歌山市は魅力的な街であり、移住したいと考えている人が多くいるはずで。私は市長として、「空き家バンク」や「空き家相談センター」のほかにSNSでの相談や質問などができるようにし、今より手軽に相談できるようにしていきたいです。</p> <p>以上で答弁を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

質問(東和中学校)		答弁(西浜中学校)	
分野	県都として活力にあふれたまち	分野	県都として活力にあふれたまち
	<p>議長のお許しをいただきましたので、ただいまから一般質問をさせていただきます。</p> <p>まず、令和5年4月1日の和歌山県内の人口は895,931人で、昨年度の906,968人より110,37人減少しました。対前年増減率は、平成9年に減少に転じた後、27年連続で減少しています。令和5年4月12日に公表された都道府県別人口増減率では、和歌山県は-1.13%で、全国で8番目に多く減少しています。</p> <p>その原因の一つとして、長い間若者が県外に就職することが多く、若者の流出が大きかったことが挙げられます。私としましては、正直なところ、大人になったら県外に就職しようかと考えています。その一番の理由としましては、「たくさん物が手に入る」ことです。もちろん和歌山県にも果樹栽培や漁業を含め自然の豊かさなどの良いところはたくさんありますが、やはり若者にとっては都会の方がほしい物が手に入りやすいという点で惹かれてしまいます。</p> <p>そこで市長に質問です。</p> <p>「このままだと和歌山県の人口は少しずつ減少を続けていくと思いますが、和歌山市ではこの現状の中、これからどのような取り組みを行おうと考えていますか」</p> <p>以上で質問を終了させていただきます。ありがとうございます。</p>		<p>和歌山市立東和中学校の質問について、答弁をさせていただきます。</p> <p>和歌山県の人口が減少している理由に「若者の県外への流出が大きかった」とおっしゃっていましたが、実際に和歌山県から県外の大学へ進学する割合は82.2%と多いようです。そのままその地域から和歌山に戻ってくる人は少ないでしょう。</p> <p>そこで私は、和歌山に戻ってきてもらうために「県内に働き口がない」「和歌山で働いたら損をする」という誤解を解き、地元で就職する人を増やし、自然を活かした休暇を楽しみつつ、仕事をするワーケーションを取り入れる取り組みを行うことを考えています。</p> <p>また、和歌山に住んでいる若い人を引き止めるだけでなく、県外の人々に魅力を感じてもらい、和歌山で暮らしてもらうことも考えています。</p> <p>例えば、空き家の活用です。人々が使わずに空き家となる場所が多く出てきているように感じます。空き家を見たとき、立派な建物なのに使わないもったいないと思います。そのような所を、図書館、カフェ、おしゃれな百貨店、ほかにも、ミュージカルやコンサートを行える文化会館に変身させると、人々がもう使わなくなった建物や敷地が再び活気あふれる場として貢献できると考えました。図書館は、みんなで教えあい、勉強ができる場所を設けたり、文化会館は、中学生が地域の人と交流する場をつくり、発表会を開催したりして使用しようと考えています。また、学校のグラウンドなどは、スポーツエリアとして、たくさん遊びができる施設へと生まれ変わらせます。そして和歌山の職人の仕事が減っている現状から、空き家を使って職人さんの職人技を披露したり、その職人さんと一緒に体験したりする設備を整えるとより良い町になると考えます。</p> <p>空き家をこのような施設に変えると、人々もたくさん来てくれると考えています。それに加え、交通の便をもっと改善することで、和歌山は「トカイナカ」に生まれ変わります。</p> <p>空き家を長期間滞在できる施設に変えると、和歌山の住みやすさをより感じるができるでしょう。県外だけでなく、和歌山県民にもワクワクを感じさせられる魅力的な町へ生まれ変わると考えています。</p> <p>以上で答弁を終了させていただきます。ありがとうございます。</p>

質問(西和中学校)		答弁(明和中学校)	
分野	県都として活力にあふれたまち	分野	県都として活力にあふれたまち
	<p>議長のお許しをいただきましたので、ただいまから一般質問をさせていただきます。現代の子どもたちはテレビゲームやスマホなど家で過ごすことばかりで、あまり外で遊ぼうとしません。</p> <p>私がバスケットボールをしようと思い和歌山市のコートを探したところきちんとしたコートがなく困ってしまったことがあります。他にもサッカーやスケートボードなど広い場所が必要なスポーツを気軽にすることが難しいという問題があります。スケートボードに関してはできる場所が少ないため、ルール上禁止されてある場所や道路でスケートボードをしてしまって事故につながるという話も耳にします。</p> <p>例として和歌山県出身のスケートボード選手、四十住さくらさんは和歌山県にスケートボードができる場所がなく、練習場を求め兵庫県神戸市などまで通うことを余儀なくされていました。しかし、地元からの援助もあり、自宅近くに自らのスケートボード場をつくることができました。四十住さん以外にも練習したくても練習が出来なくて困っている人がいます。</p> <p>もし、どの地域にも体を思いっきり動かせるアスレチックのような公園やバスケットボール、スケートボードができる所があれば誰もがみんな安全に遊ぶことができるのではないのでしょうか。また、子供の健康にも繋がりが、人とのコミュニケーションの場にもなると思います。</p> <p>そこで市長に質問です。</p> <p>「和歌山市の公園が年々少なくなってきたり、遊具が減りルールが厳しくなってきたりのように感じているのですが、誰もが気軽に遊べるような心惹かれる面白い施設がもっと増えれば和歌山市の活性化にもつながると思っています。子供達がルールを守り楽しく元気に過ごせる場所や施設についてどうお考えですか。</p> <p>以上で質問を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>		<p>和歌山市立西和中学校の質問について、答弁をさせていただきます。</p> <p>誰もが気軽に遊べるような心惹かれる施設がもっと増えれば和歌山市の活性化にもつながり、子供たちがルールを守り楽しく元気に過ごせる場所や施設についてどう考えるかという質問でしたが、中でも、現状の課題点として遊ぶ場所が少なくなっている、遊具が減っている、ルールの厳格化がされているという点についてお答えします。</p> <p>ご指摘のように、テレビやゲームを楽しむ子どもが増加したことで公園が活用されるようになってきました。また、遊具の老朽化や法改正により撤去されていることやメンテナンスが行き届いていなかったりすることで遊具が減っています。</p> <p>公園を維持していく地域のボランティアが時間や情報の不足により積極的に参加がなされていない状況もあります。</p> <p>さらにルールを守れていないことや事故が発生したためにルールが厳格化されているほか、費用や場所の不足など、現在の和歌山市の公園を取り巻く現状は厳しいものになっています。</p> <p>よって解決策として場所・費用が不足している点から今ある公園を活用することを前提としつつ、以下2点を提案していきたいと考えています。</p> <p>まず1点目に、利用者を住み分けることです。</p> <p>具体的には、遊具のある公園では遊具で遊び、敷地だけの公園ではボール遊びを許可するなど目的別に公園を分類します。面積等の問題で不可能な自治体は親子連れ、小学生、中高生と、利用者の年代別に優先時間を設定します。これによりボール遊びによる事故を防ぐことができるだけでなく、ボールで遊びたいという利用者と安全に遊ばせたいという利用者の住み分けをし、トラブルを防止することができます。これにより誰もが気軽に遊ぶことができるという点が解決することができると考えています。</p> <p>2点目は、学校行事として各小中学校・高校で清掃行事を行うことです。放課後自分たちが過ごす場所は自分たちで維持をすることを目標に清掃を行うことで、継続的に公園を清潔に保つことができることや公園に対して愛着を持つことができるなどのメリットが挙げられます。また、児童生徒が清掃を行うことで、その家族が公園を維持するボランティアがどういったことを行うのかを知り、ボランティアに参加する人数が増加することが期待できます。このようにして公園を維持していくためのボランティアの裾野が広がり、多くの人がかかわることで、子供たちがルールを守って元気に楽しく過ごすことのできる場所や施設としての公園が、この先も維持されていくためのきっかけになると考えています。</p> <p>子どもたちがルールを守って元気に楽しく過ごすことのできる場所や施設としての公園が、和歌山市の活性化につながるためにも提案した2点の解決策が有効であると考えています。</p> <p>以上で答弁を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

質問(河北中学校)		答弁(河西中学校)	
分野	子供たちがいきいきと育つまち	分野	子供たちがいきいきと育つまち
	<p>議長のお許しをいただきましたので、ただいまから質問させていただきます。</p> <p>私たちは今回の質問を考えるにあたり、日頃から使っているICT端末について考えてみることにしました。私が初めてパソコンを支給されたのは小学4年生の時です。なんだかワクワクして嬉しかったことは覚えています、パソコンを支給された理由はわかかっていませんでした。タブレットが支給され授業で使うことが増えると、ネットにつながりにくい日があったり、思い通りに使うことができる日もあったりと、ネット環境の不安定さに気づきました。このことから、安定した環境の中でタブレットを使うことができればいいなと思い、調べてみることにしました。</p> <p>2019年から「GIGAスクール構想」として、全国の児童生徒、一人一台のコンピュータと高速ネットワークを整備する取り組みが始まりました。和歌山市では、新型コロナウイルス感染症の影響で、休校措置が長引く中、子供たちの学びの環境を守るため、2020年度までに、ネットワーク環境の整備と、和歌山市の児童生徒一人一人一台のパソコン支給を完了する【緊急経済対策】を打ち出しました。</p> <p>休業中や欠席時のオンライン授業など役立つこともありました。しかし、日によっては、ネット環境が良好ではなく、タブレットを思うように使用できないことがあるのが現状です。また、今回の質疑にあたり、調査したところ令和3年度のパソコンの故障率は1.8%、一台あたりの修繕費用は平均約3万9000円、和歌山市で支給されているパソコンの台数が約2万5000台であることから、単純計算で年間約2000万円程度の修繕予算が必要になることを知りました。</p> <p>このようなことを踏まえ、各学校がネット環境のさらなる整備を進めるための取り組みと、それに伴う費用が必要であると考えます。また各家庭で少額の積み立て(1か月50円など)で「GIGAスクール構想」を地域で支えていく方法も視野に入れるべきではないかと考えます。</p> <p>そこで市長に質問です。ネット環境を整備し、生徒たちがスムーズにタブレットを活用するために、どんなことを行っていますか。また、経済的な面も含め、今後も「GIGAスクール構想」を継続的・安定的に推進するための課題や改善案を教えてください。</p> <p>以上で質問を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>		<p>和歌山市立河北中学校の質問について、答弁をさせていただきます。</p> <p>GIGAスクール構想が令和2年より始まり、和歌山市でも各小・中・義務教育学校で一人一台端末の活用が始まりました。</p> <p>時間が経つにつれ、学校での活用も授業だけでなく、学校生活のあらゆる場面で進んできている状況です。</p> <p>年々各学校の活用が進み、学校のあらゆる時間帯で、たくさん端末がインターネットへ接続をしています。大変喜ばしいことですが、一方で、たくさんの通信がインターネット回線を通る状況になっています。</p> <p>現在の和歌山市内各小・中・義務教育学校のインターネット環境は、各学校の回線を一か所に集約しインターネットに接続する方式を採用しています。そのため、小・中学校単位でつながりにくい状況になるだけではなく、今年度の状況でいえば、和歌山市内小・中・義務教育学校全体のインターネットの通信使用量が多い状況にあるので、市内全域の小・中学校がつながりにくい状況です。</p> <p>私たちの学校でも、つながりにくさの影響で、端末か紙のどちらかで課題に取り組むかを選べる場合、学習を進めるために紙を選ぶ生徒が多いことがありました。また、授業で調べ物をする時には、なかなかつながらず、それによって授業時間が有効に使えないこともありました。そのため、もっと早くつながり、スムーズに作業したいという声が多数聞こえてきます。</p> <p>このままの状態では、和歌山市内の児童・生徒・先生方が端末を安定的に、また更なる活用を推進していくことにはならないことと和歌山市でも認識しているため、令和5年6月議会にて、各学校のインターネット環境を安定させるための予算を確保し、今現在、和歌山市内の各学校において拡張工事を行っているところです。</p> <p>また、議員ご指摘の通り、端末の修繕については、多額の修繕費用がかかっている状況であります。この点につきましては財政面で支えつつ、各学校においても児童生徒一人一人に対して、端末を大切に・安全に使用することなどを再度指導するよう通知しているところです。</p> <p>各家庭からの少額の積み立てをするご提案ですが、各家庭の経済状況が違うため、今のところ考えておりませんが、貴重なご意見としてうかがっておきます。</p> <p>現在使用している端末も今後老朽化し、OSのアップデートができなくなることやバッテリーの最大容量が大きく低下するなどを想定し、今後端末を新しく更新していくことも視野に入れています。</p> <p>以上で答弁を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

質問(紀之川中学校)		答弁(西脇中学校)	
分野	誰もが安心して暮らせる優しいまち	分野	誰もが安心して暮らせる優しいまち
	<p>議長のお話しをいただきましたので、ただいまから質問させていただきます。私たちは2点質問させていただきます。</p> <p>初めに、私は防災対策について考えました。配布された資料を見て、高齢者のみラジオを配布していると知り、他の世帯への対応が気になりました。</p> <p>南海地震の発生確率は、今後30年以内で70%~80%程度、50年以内は90%程度にも及んでいます。和歌山市は南海地震で、震度7から6弱の揺れと最大8メートルの津波におそわれるとされています。</p> <p>誰もが安心して暮らせる優しいまちを築いていくためにも、災害について、危機感をもって防災対策をしっかりとすべきだと考えました。</p> <p>和歌山市では防災ラジオを高齢者世帯に貸し出されていますが、調べてみると、20代世帯ではわずか3.3%しかラジオを所持していないそうです。</p> <p>そこで質問です。若者への防災対策はどのようにされていますか。また、減災のための対策として他にされていることはありますか。</p> <p>次に、私は交通安全面について考えました。</p> <p>小学校付近を歩いていると、結構狭い道路を国道と同じような速度で走っている車をよく見ます。私自身も小学校の頃、スピードが速い車と接触しそうになり、危なかつたことがありました。小学校付近は基本的に通学路になっているので時間帯によっては子どもも多くなっています。また夜になると、街灯が少ないので車側から歩行者が見えづらいと思います。</p> <p>道路を大きくすることは困難でも、標識や街灯を増やしたりすることは、比較的負担が少ないと思うのですが、その点についてはどのような対策をお持ちですか？</p> <p>以上で質問を終了させていただきます。</p>		<p>和歌山市立紀之川中学校の質問について、答弁をさせていただきます。</p> <p>紀之川中学校への質問に回答します。「若者への防砂対策はどのようにされていますか。また、減災のための対策として他にされていることはありますか」という質問です。</p> <p>はじめに、和歌山市で行われている防災対策について説明します。</p> <p>和歌山市のホームページに、「和歌山市防災情報提供プラットフォーム」というものを設置しています。このサイトでは防災に関する知識や、情報を得るための方法、ハザードマップなどを掲載しており、万が一の災害に備えて市民への災害対策の呼びかけや情報提供を行っております。</p> <p>また、多くの小中学校では地震を想定した避難訓練が実施されており、身の安全の確保や避難経路の確認を行っております。</p> <p>現代はスマホや学校から配布されたパソコンなど身近にある端末を防災・減災に最大限利用することも一つの手だと考えます。しかし、このようなサイトやホームページのことは住民には十分に知られていません。</p> <p>そこで、私たちが考えたことは、小中学校において、「和歌山市情報提供プラットフォーム」や「防災ハザードマップ」などを活用し、どのような対策ができるのかを身近な人と考えたり、話し合ったりする機会を設けることです。たとえば、防災を意識したアンケートを作成し、アンケートの答えを集計して、その結果をもとに学級で防災について話し合う時間をつくることなども有効だと思います。</p> <p>生徒会として、これから一人ひとりに防災を意識してもらえるように、機会を作ったり、より身近な話題として感じてもらえるようなきっかけづくりをしたりしていきたいと考えます。</p> <p>次に「通学路における比較的財政負担が少ない交通安全対策」についてです。</p> <p>まず初めに今、和歌山市で行われている対策では、スクールゾーンに代表される時間帯の交通規制や通学路の速度制限などがあります。</p> <p>和歌山市では通学路交通安全プログラムを策定し、毎年4月に市内各小中学校にて危険箇所の見直し点検を実施しています。そして、点検の結果から明らかになった対策必要箇所について、箇所ごとに、歩道整備や防護柵設置のようなハード対策や交通規制や交通安全教育のようなソフト対策を施しています。</p> <p>また、地域では交通安全教室や子供たちの登下校を見守る「見守り隊」という保護者や地域の方々が行っているボランティア活動などがあります。</p> <p>そこで、私たちは、交通安全対策は日々の注意喚起が大切だと考えます。</p> <p>私たちが考えた対策は、地域の人だけではなく観光客などに届けるために防災無線を使ってよびかけることです。登下校の時間帯に定期的に放送を行ったり、「5時のチャイム」のような音楽が流れたりすることで、人々に身近に感じてもらい、そして生活に馴染むような対策になっていくと考えます。</p> <p>さらに町内の掲示板や回覧板などにポスターを張ったり、標識などの設置をしたりすればより街の交通安全に対する意識を高めることができると考えます。</p> <p>以上で答弁を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

質問(加太中学校)		答弁(紀伊中学校)	
分野	県都として活力にあふれたまち	分野	県都として活力にあふれたまち
	<p>議長のお許しをいただきましたので、ただいまから一般質問をさせていただきます。よろしく申し上げます。</p> <p>私たちが在籍する加太の町は、人口が少なく、空き家も多い上に、今はすぐ近くにスーパーもコンビニもなく不便です。しかし、自然にあふれ、年間を通して多くの観光客が加太を訪れます。加太特有のイベント、観光施設あります。</p> <p>にもかかわらず、若者・住民の数は減り、このままでは加太中学校が無くなってしまいうのではないかと思わざるを得ません。そこで、加太の町の活性化を諮っていきたくと一考え一つ質問させていただきます。</p> <p>和歌山市では過疎化に対してどのような具体的な施策を講じているか。また、加太に何かしらの施設を建設することは可能かをお聞きしたいです。</p> <p>以上で質問を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>		<p>和歌山市立加太中学校の質問について、答弁をさせていただきます。よろしく申し上げます。</p> <p>和歌山市では過疎化に対して次のような対策を行っています。</p> <p>まず、和歌山市ではトライアル和歌山市活動費支援金というものがあります。内容としては和歌山市で移住や就業、学校生活などをお試して体験した方や、ワーケーションを行った企業に対して、活動にかかる経費の一部を支援するというものです。</p> <p>また、現時点では今年度分の応募は終了しておりますが、和歌山市に移住される方に対して支援金の交付を行うなどを行っています。</p> <p>更に高齢化社会にも対応しており、買い物支援バスなどがあります。</p> <p>次に、加太に何かしらの施設を建設することは可能であるかについてお答えさせていただきます。</p> <p>私たちは加太に体験型テーマパークを建設することを考えました。</p> <p>施設の内容としては、海の浜に流れ着いたシーグラスを使った装飾品作りや釣り体験など、レジャー施設にすることにより、家族連れをターゲットに加太の魅力を発信できればと考えます。</p> <p>また、空き家の内装・外装をきれいにして、再び人が住める環境を作ります。シェアハウスや家族で住むなど様々な利用方法があると考えました。</p> <p>以上で答弁を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>